

A、
B

平成二十八年年度個別学力検査問題(国際資源学部、教育文化学部)

国
語

前
期
日
程

注
意
事
項

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二 この問題冊子は、七ページあります。解答用紙は一枚です。問題は二題あります。二題すべてに解答しなさい。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 三 監督者の指示に従って、解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 四 解答は、解答用紙の該当欄に記入しなさい。
- 五 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 六 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

本文省略

(佐藤健二『ケータイ化する日本語』より)

問一 傍線部①に「翻訳」から見える風景が違ってくる」とあるが、ここで対照される二つの「翻訳」は、それぞれどのようなものか、述べなさい。

問二 傍線部②に「ことばでわかる」とあるが、「翻訳」の場合それはどうすることだと筆者は言っているか。その考えが述べられている部分を傍線部②以降、「(中略)」「までの中から四十五字以内で探し、その始めと終わりの五字をそれぞれ抜き出して答えなさい。(句読点も一字と数える。)

問三 傍線部③に「自動翻訳ソフトによる文章の未熟さも、まさにそのあたりにある」とあるが、どういふ点で未熟だといふのか、述べなさい。

問四 本文中の に入る四字以内の語句を、傍線部③以降、「(中略*)」までの中からそれぞれ抜き出して答えなさい。

問五 二重傍線部に「さきほど論じた」とあるが、筆者はそれ以前に、道具の特性について次のように論じている。その内容も参考にしながら、傍線部④の「複数の存在の配置のうえで現れる、道具としての適切さ」とはどういふことか、本文中の例をあげながら述べなさい。

本文省略

問六 傍線部⑤に「道具」としてのことばは、その存在形態それ自体が、じつは空間的なのである」とあるが、なぜそのように言えるのか、本文中の若者語彙の例をあげながら述べなさい。

問七 筆者の考え方にあなたは納得しましたか、しませんでしたか。はじめに納得したかしないかを答えた上で、その理由を二百字以内で述べなさい。その際に、本文中にない具体例を一つ以上あげなさい。

— ① ② ③ ④ ⑤ の傍線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① テイサイ をとり繕う。
- ② フヘン 性のない理論だ。
- ③ 現代社会に ケイシヨウ を鳴らす。
- ④ 要点を タンテキ に述べる。
- ⑤ 今日のために三年の歳月を ツイ やした。